

第3章 現況や住民ニーズの整理と課題の設定

ここでは、「第1章 都市の現状」について整理するとともに、ワークショップで出された意見や市民アンケートを参考として、上位関連計画を踏まえながら市の課題を設定します。

3-1 現況の整理と時代の潮流

本市の現況について以下のように整理します。

項目	現況
位置と地勢	・市域の約8割は山間地が占めています（P5）
地域特有の風土	・平野部はカイニョと呼ばれる屋敷林に囲まれた農家住宅が点在する「散居村」が広がっています（P6） ・井波と城端は門前町、福野と福光は市場町として発展してきました（P6） ・五箇山は「合掌造り集落」など固有の文化を育てています（P6）
都市計画の状況	・平野部を中心に城端、井波、福野、福光の4つの都市計画区域が指定されています（P7） ・用途地域は城端、井波、福野、福光の各地域の市街地に指定されています（P7） ・都市計画道路の改良率は、約5割～8割になっています（P8） ・公園緑地などの都市施設が計画決定されており、下水道については都市計画区域のほとんどが供用開始しています（P9）
人口と世帯数	・世帯数は横ばいですが、人口減少が続き、核家族化が進行しています（P10） ・全国的な少子高齢化に加え、若年層を中心とした流出により人口構成の変化が生じています（P10） ・自然動態と社会動態ともにマイナスとなっています（P11） ・産業別人口は第一次産業と第二次産業が減少し、第三次産業が増加しています（P11）
産業	・平野部は製造業が多く、五箇山は建設業や飲食・宿泊業の割合が多くなっています（P12） ・農業は稲作が中心ですが、干柿、里いも、城端牛などの特産品もあります（P12） ・工業は「一般機械」「金属製品」「木材・家具等」などが盛んです（P13） ・商業については、商品販売額が減少しています（P13）
土地利用	・市街地郊外は散居村形態となっていますが、工場や新興住宅が立地してきています（P14） ・用途地域内で、空き地や空き家が増えてきています（P15）
市街地の動向	・用途地域内の人口減少が顕著で、市全体より高い率で減少しています（P16） ・開発行為は、用途地域外で多く行われています（P17） ・新築は用途地域外で多く行われており、結果的に市街地の分散化に繋がっています（P17） ・第一種低層住居専用地域において、農地がまとまって残っています（P18）
交通体系と生活圏	・福野や井波地域から福光ICへ直接連絡する道路が整備されていません（P19） ・砺波 - 福野 - 福光 - 城端間の交通量が多くなっています（P20） ・鉄道やバスなどの公共交通の利用者は減少傾向にあります（P21） ・OD調査によると、本市は砺波市、高岡市、小矢部市、富山市、金沢市とのつながりが強く、市内では城端、福野、井波、福光の4地域間の結びつきが強いことが分かります（P21） ・通勤では流入より流出が多く、市外への通勤者は、砺波・高岡・小矢部が多くなっています（P22） ・地元購買率が低く（平野部42.1%、五箇山12.1%）、市外での購買が大きくなっています（P23）
都市施設等	・市役所は分庁舎方式となっています（P24） ・観光施設が多くあり、年間を通して各地で祭りやイベントが開催されています（P26）
安全と災害	・高清水断層や法林寺断層などの活断層があります（P28） ・台風や豪雨による土砂崩れ及び雪害が発生しています（P28）

ページ番号：「第1章 都市の現状」の関連するページ

左の表のうち、特に本市にとって重要な項目と思われる現況を再整理するとともに、本市を取り巻く時代の潮流と今後の変化要因について整理します。

現況の整理

平地から山岳部まで地形の起伏に富む
庄川・小矢部川水系に位置し、自然や四季の変化に恵まれる
独自の歴史・文化・観光資源を持つ8町村の合併で新市誕生
平地部の散居村や歴史的な市街地、合掌造り集落など特有の景観を誇る
農業・製造業は幅広く展開するが、都市的集積については相対的に低い
散居や過疎等の低密度居住、マイカー中心の交通
富山・高岡・金沢など北陸の主要な都市に近接する
北陸圏と中京都市圏とを結ぶ軸上に位置する

時代の潮流と今後の変化要因

少子高齢化、高齢者(単身)世帯の増加、団塊世代の大量退職
人口減少のなかで、地域力(地域の総合力)の結集や地域間の交流・連携の高まり
産業構造の転換、経済のグローバル化、国際分業化、就業形態の多様化、
コミュニティビジネス¹への期待増
IT化の進行、ユビキタス社会²の到来
環境・資源・エネルギー対策の重要化
東アジア諸国を中心とした外国人観光客の増加
国際観光の急伸、人材育成・環境等での国際社会への貢献など
自然災害の多発、食の安全問題、スローフード³、健康増進などによる
安全・安心な暮らしへの関心の高まり
東海北陸自動車道の全線開通による中京都市圏への時間短縮
北陸新幹線の金沢までの開業(平成26年度)による鉄道網(航空網)の改変
中部縦貫自動車道整備による首都圏への時間短縮
地方分権が進展し道州制の導入が議論、地方が自立的に発展する国土への転換

- 1 コミュニティビジネス : 地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むものであり、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与するものと期待されています。
- 2 ユビキタス社会 : 「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」がコンピューターネットワークを初めとしたネットワークにつながるにより、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会
- 3 スローフード : 食生活を見直そうとする運動。伝統的な食材や料理を守り、質の良い食材を提供する小生産者を保護し、消費者に味の教育を行う。

3-2 ワークショップの意見結果

第1回ワークショップ

日時：平成19年8月5日(日)午後2:00～5:00
 目的：南砺市の良いところと悪いところについて整理
 作業内容：「良いところ」と「悪いところ」についてふせんに意見を書き出し
 グループで出された意見の中から、各項目ごとに5位までに整理して発表
 発表後、同意見と思われるものについて点数で評価

始めに、市の「良いところ」と「悪いところ」について意見を述べてもらいました。

項目	良いところ	悪いところ
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 自給自足が可能である 散居村の保全 クリゾンテムふくの(高齢者住宅) 市街地は近くに公園が整っている 商業地が市街地の近くにある 駅前空間がきれい(福野) 農村部に立地された駐車場が整備 	<ul style="list-style-type: none"> 中心商店街の空き店舗 市街地の空地が利用されていない 従来の商店街に活気がなくなっている 生活施設のバラツキ旧町村で大きな差 市街地の整備が中途半端 市街地が広がりすぎ 無秩序に宅地造成が行われている 専門的な商業施設が少ない 農業の不耕作地が多い 地場産を活かした商品・製品が少ない 土地利用に住民の意思が反映されていない
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設、クラブが充実 道路が良く整備されている 高速道路で便利になった JR城端線がある 教育施設の集中化、工場群の集結が進んでいる。 保育園、福祉施設などが統合され良くなった 城端小学校校舎の外観が良い ヘリオス フローラルパーク(園芸植物園) イオックスアローザ 他地域にある文化施設が使える ショッピングセンター等買物ができる楽しい町 	<ul style="list-style-type: none"> 病院の設備は良いのに医者が少ない 公共交通の利便性が悪い 商店街に活気がない 既存施設の有効利用 中心街の駐車場不足による路上駐車が多い 行政施設の分散(分庁舎の必要性) 保育園、小学校の規模にばらつきがある 生活施設、維持管理が不十分 道路整備の遅れ幅の遅れ 交通事故、高齢者の移動 道路の問題(防災、市街地の狭隘区間) 南砺市内の動線がわかりにくい いろいろな信号機が多い 公共施設の必要性 案内標識が少ない
都市景観	<ul style="list-style-type: none"> 伝統を活かした街並み 世界遺産の合掌造り集落 観光資源が豊富 田園景観が良い 閑乗寺からの散居村 各地域にある桜並木 街並みの景観が良い 地域住民の環境意識が高まった 旧町村の特徴ある景観はそのまま残してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 電線電柱の地中化が進んでいない 景観悪化のおそれ(散居村) あずまだち、カインヨなど昔からの農村風景が失われている 商店街に店がまばら 案内看板など統一化していない 旧町村の景観の特色を活かしてほしい 小矢部川の景観をよくしてほしい 各地域の歴史、文化の伝承が低い
都市環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境に優れている ITインフラが整備されている 昔ながらの街並みを感じさせる 地区のまとまりが良い 観光資源に優れている ゴミ出しルールが守られている 行政がスリム化された 南砺市としての一体感が出てきた 自然と共生するイメージが良い 田園景観や自然環境 コミュニティバスで自由に安く行ける 観光施設がある程度整っている 	<ul style="list-style-type: none"> 若者が集う場所、能力を引き出す場所があまりない 防災計画を見直すべき 地震など大規模災害への備えや意識が低い 観光対策が不十分(PRや接客) 住宅の耐震補強の遅れ コミュニケーションが希薄になりつつある 子供が安心して遊べる場所がない 都市の性格やまとまりが不明確 新しい団地が増えて、旧来からの祭り、行事が成り立たなくなっている

出された各意見に対して、参加者による投票で順位を決めたところ、下表のようになりました。

	良いところ			悪いところ		
	順位	項目	点数	順位	項目	点数
土地利用	1	自給自足が可能	4	1	空家が増加、住居として利用	10
	2	散居村の保全	1	2	専門的な商業施設が少ない	3
		クリゾンテムふくの(高齢者住宅)	1	3	市街地の整備が中途半端	2
					市街地の空地が利用されていない	2
				土地利用に住民の意思が反映されているか	2	
都市施設	1	スポーツ施設が充実している	5	1	病院施設が不十分 産婦人科の医師不在(の時期があった)	29
	2	道路が整備されている 高速道路で便利になった	2	2	公共交通の利便性が悪い	6
	3	JR城端線がある	1	3	商店街に活気がない	5
					既存施設(公共施設)の有効利用	5
				4	中心市街地の駐車場不足による路上駐車が多い	3
都市景観	1	井波、城端の寺院を中心とした街並み、五箇山の合掌造り集落	8	1	電線の地中化が進んでいない	6
	2	観光資源が豊富	4	2	景観悪化のおそれ(散居村)	5
	3	田園景観が良い	2	3	商店街に店がまばら	2
旧町村の特徴を残して活かすべき		2	案内看板など統一化していない		2	
都市環境	1	自然環境に優れている	5	1	若者が集う場所、能力を引き出す場所があまりない	11
	2	ITインフラが整備されている	4	2	防災計画見直すべき。地震などの備えや意識が低い	4
	3	昔ながらの街並みを感じさせる	3	3	観光対策が不十分(PRや接客)	3
	4	地区のまとまりが良い	1		地域内でのコミュニケーションが希薄になりつつある	3
				5	子供が安心して遊べる場所がない	2

点数について 34名の参加者が1人につき持ち点5点として投票してもらいました。

第2回ワークショップ

日時：平成19年9月20日(木)午後7:00~9:45
 目的：南砺市の将来イメージはどんなものか、またそれに向けて何をしたら良いかについて
 作業内容：先に示した典型となる4つの将来像から2つを選択 2つの将来像について実施すべき施策について検討 各グループごとに発表 発表後、同意見と思われるものについて点数で評価

第2回ワークショップは「研究開発・流通産業拠点都市」「文化創造・交流都市」「スポーツ・健康・レクリ都市」「エコ&スローライフ都市」の4つの典型となる将来像を示して、どの将来像が悪いところを改善し、良いところを伸ばす将来像なのかについて評価してもらいました。その後、下表のようにその将来像を実現するための施策や事業について意見を述べてもらいました。

都市像	第1位 (D)エコ&スローライフ都市 1位 - 3グループ 2位 - 1グループ	第2位 (B)文化創造・交流都市 1位 - 1グループ 2位 - 2グループ	第3位 (C)スポーツ・健康・レクリ都市 2位 - 1グループ				
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の推進 地域の特産物の生産により土地を有効に使用する 休耕地などを利用 オーナー制 休耕地で特産品のどじょうの養殖等 農作物をつくるのに利用し、若い世代にも楽しく経験させてあげられる機会をつくる 食料だけでなくエネルギー自給率を上げるために土地を使う 空き地も利用して果樹園等のゾーンを作る 特産果樹園を新たに作る(観光利用も) 田畑を無償提供できる環境づくり グリーンツーリズムの推進(中京圏対象)農業自然体験する 公共施設の集約 切られた屋敷林の修復 	<ul style="list-style-type: none"> 寺院など古い街並みの周りの景観を保護する 土地利用の規制 ゾーニングの徹底 宿泊して都市の人に体験農業を進める 休耕地の有効利用 観光などの施設駐車場(大型) 空家、空き店舗に文化的施設を入れる(アンテナショップ、記念館) 					
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> 体験農業施設の設置 空家を民泊に、グループホーム等の活用 エコ&スローライフ都市をトレーニングできる施設、研修所 各地域の特産品を一同に集めた直売所の施設を設ける 公共交通機関の利用を増やす DMV城端線乗り入れ コミュニティバスの充実 マイカーが無くても普通に生活できるくらいの公共交通がほしい 街なか高齢者共同住宅 道路、駅など公共の場所の段差解消 ・舗道の整備 城端、井波、福野、福光を結ぶ環状道路整備 IC近隣の整備(特産品、食を中心とした施設) 高齢者用 レクリエーション施設の増設 公害及び汚染に対する監視、管理 	<ul style="list-style-type: none"> 福野にスマートICをつくる 高速道の四車線化の促進 駐車場の整備充実 城端線の電化、増便 新幹線と接続 歩いて暮らせるまちづくり 公共交通整備 埋もれている施設の活用 多目的ホールの増設 8町が集まり発表できる大きな会場をつくる 見学する所はたくさんあるが宿泊施設が必要 大型ショッピングセンターの誘致 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場の通年利用 空家の斡旋 医者の確保 メタボリック対策用施設を作る 病院施設の役割分担化 診療科目の充実 国際大会が開催できるスポーツ施設 プロスポーツを呼ぶ環境を作る 				
都市景観	<ul style="list-style-type: none"> 看板など市として統一 散居村の景観保全のため電線の地中化 統一した色彩の街並みづくり 水田の利活用 景観の良い作物を作付けする(菜の花、コスモスなど) 公の清掃活動(地域の草むしり等)をするだけでなく楽しむ催しを考える 高層マンションを建てない。平屋住宅をつくる お金をかけず田舎を打ち出す 	<ul style="list-style-type: none"> 統一看板の整備、案内標識の充実 桜並木の整備 瑞泉寺前通りの石畳を歩行者天国にする(通りの駐車場対策を実施) 文化的建造物の景観を損なわないようにする 歴史的な街並み保護、古い街並み保全 他からの観光地に比べて知名度や観光客数がまだまだ低い 	<ul style="list-style-type: none"> 看板など市として統一 				
都市環境	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地の環境保全 医療施設の拡充 病院の統合、スタッフ充実 ゴミ収集場所をきちんとして収集カゴを統一する 自動販売機を整理してはどうか(ポイ捨て禁止) 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいものを創るのではなく、現在あるものに対して特化したものを市民全体に浸透させる 豊富な観光資源をもっと活用してほしい 					
ソフト施策	<ul style="list-style-type: none"> 若者就労者の拡大 大都市から移住しやすくする対策、UIターン バイオマス燃料の開発(休耕地の活用) 人口減対策 空家空地休耕地なくす 散居村の保全 水田の保全 農業後継者育成 エコ&スローライフに対する啓蒙活動 地域のイベント等の出店に、若者グループ等に参加を呼びかける 全員参加型のイベント 道路やアパートを建設するお金をタクシー等を利用する時の割引券に充てる 	<ul style="list-style-type: none"> 祭りの開催前、開催中は市全域の施設でムードを盛り上げる(例えば坂高ならミニ行燈を設置など) イベント集約 大規模化 木彫刻のような伝統工芸の後継者(担い手)育成する(助成等) 地域の伝統文化の継承 特産品を活かした町おこし ボランティア等の育成(観光化へのPR) 伝統行事の後継者対策 学校教育内での地域の伝統文化芸能など教育、授業 富山県及び南砺市の知名度がいまいちなので宣伝活動を 文化財、文化活動への補助 スキー場温泉施設、共通利用券の発行 観光施設めぐりの観光バス会社等との契約 	<ul style="list-style-type: none"> インストラクターの養成 市民参加型の大きなイベントの開催 若者定住のための施策 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> 旧町村の特徴を市として築いていく 旧町村の個性を活かす 8地域の個性を重んじるよう考え綱引きはやめる 分庁方式から本庁へ 自給自足生活(生産からゴミ処理まで) 安全安心な生活のための施策(携帯不感地帯の解消) 医療関係の情報発信 エコ&スローライフ都市であることをPR(日本で1番エコな都市など) 地元の農産物がすぐに買える、すぐに売り出せる、どこでも食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育への助成等 文化行事等を宿泊施設のリンク 	<ul style="list-style-type: none"> 旧町村の特徴を市として築いていく 旧町村の個性を活かす 8地域の個性を重んじるよう考え綱引きはやめる 分庁方式から本庁へ 				
重要性の 高い 取り組み	1位	特産物の生産(土地利用)	7点	宿泊体験農業	8点	医療、保健施設グレードアップ	2点
	2位	公共交通(コミュニティバス)の充実	5点	教育現場で地域の伝統文化を教える	6点	国際的なスポーツの振興(施設、インストラクター)	
	3位	特産品づくり、果樹園、オーナー制	3点	市全体としてイベントの盛り上げ		スキー場の通年利用	0点
	4位	空家活用、体験施設		統一案内看板の整備	5点	若者定住対策	
	5位	お金をかけずに田舎を打ち出す		宿泊施設の整備(駐車場及び案内標識)	4点		

点数について 28名の参加者が1人につき持ち点3点として投票してもらいました

ワークショップで出されたそれぞれの意見について、以下のようにまちづくりの検討施策に反映させていきます。

分類	ワークショップ			都市計画マスタープラン
	ワークショップでの意見			まちづくりの検討施策
	課題	エコ&スローライフ都市	文化創造・交流都市	
土地利用	農業の活用	中山間地の環境保全		<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興計画・森林計画などとの調整 ・土地利用計画に基づく規制と誘導 ・計画的土地利用を図るべき都市計画区域の見直し ・市街地内活性化策と連携した公共住宅の整備 ・市民の移動ニーズに合わせた公共交通の活用促進
	無秩序な宅地造成	特産物の生産等土地を有効に使用	土地利用の規制	
	恵まれた自然環境を守る		ゾーニングの徹底	
	空き家・空き地が多い、高齢者住宅必要	街なか高齢者共同住宅		
	公共交通の利便性が悪い	コミュニティバスの充実		
		マイカー無しでも生活できる環境		
		若者就労者の拡大・Uターン		
都市施設	福光ICの利用	若者就労者の拡大・Uターン		<ul style="list-style-type: none"> ・新規産業の創出 ・流通・業務拠点の整備 ・地元農産物販売施設等の整備 ・各種都市機能の集積による市街地の活性化
	企業誘致			
	若者に対する魅力ある就業先がない	インターチェンジ近隣の整備		
	地場産業を活かした商品・製品が少ない	特産品を集めた直売所・地産地消		
	若者が集う場所が見当たらない	公共施設の集約		
	商業・商店街の停滞	医療施設の充実	空家・空店舗に文化施設を導入	
	中心市街地の駐車場不足	空き家活用	歩いて暮らせるまちづくり	
専門的商業施設が少ない	旧町村の個性を活かす	現在ある特化したものを利用する		
都市景観	福祉施設、医療施設の不足		宿泊施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能の一層の充実・向上 ・各地域での日常生活施設の整備 ・高次都市施設の戦略的配置 ・観光資源の充実とネットワーク化 ・緑豊かな都市空間(公園等)の整備 ・公共施設におけるユニバーサルデザインの推進 ・パーク&ライド等の交通乗り換え機能の整備 ・新規インターチェンジの設置 ・各地域から高速道路や国道へのアクセス向上 ・地域間を相互に連絡する道路ネットワークの整備 ・都市計画道路の未整備区間の早期完成 ・超高速通信ネットワーク網の整備
	既存施設を有効利用し充実させる		豊富な観光資源の活用	
	道の駅等との一体感が必要	安全安心な生活のための施策		
	集客力のあるイベント・観光施設が多い	道路・駅等公共の場所の段差解消	JR城端線の電化、増便、新幹線接続	
	子供が安心して遊べる場所がない	公共交通機関の利用を増やす	駐車場の整備充実	
	JR城端線の利便性の改善		公共交通整備	
			福野にスマートICをつくる	
都市環境	上場企業の多いところにICを設置			<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト施策も含めた保全・活用対策 ・無電柱化等の修景対策の実施 ・景観計画の作成 ・土地利用計画に基づく規制・誘導 ・屋敷林・建物の維持修繕等の支援 ・散居村を望むビューポイントの整備 ・景観づくり住民協定の締結促進 ・景観コンクール等の実施 ・市民や団体の活動支援・促進 ・建替えや改修による不燃化・耐震化 ・避難路・避難地の整備 ・狭隘区間の拡幅等密集市街地での防災進入路の確保 ・河川の改修整備や下水道(雨水排水)整備 ・環境や健康に対する意識等の啓発 ・余暇活動や社会貢献活動の促進 ・自然環境を活かしたレクリエーション施設の充実 ・観光客等交流人口の受け入れ促進 ・行政情報の公開 ・各種ワークショップ等の開催促進 ・NPO等市民組織の育成・支援
	それぞれの市街地を結ぶ道路が悪い	各地域を結ぶ環状道路整備		
	各施設への道路事情が悪い			
	市街地整備が中途半端	医療関係の情報発信		
	歴史的街並みの保護		教育現場での伝統文化の享受	
	電柱電線が景観を悪化	景観保全のための電線の地中化	古い街並みの景観保全	
	案内看板の統一化	看板など市として統一	文化的建造物の景観保全	
都市環境	農村景観を活かす	散居村の保全	統一案内看板の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・建替えや改修による不燃化・耐震化 ・避難路・避難地の整備 ・狭隘区間の拡幅等密集市街地での防災進入路の確保 ・河川の改修整備や下水道(雨水排水)整備 ・環境や健康に対する意識等の啓発 ・余暇活動や社会貢献活動の促進 ・自然環境を活かしたレクリエーション施設の充実 ・観光客等交流人口の受け入れ促進 ・行政情報の公開 ・各種ワークショップ等の開催促進 ・NPO等市民組織の育成・支援
	閑乗寺公園からの眺望	切られた屋敷林の修復		
	地域内コミュニケーション	統一した色彩の街並みづくり		
	街並みが中途半端	高層マンションを建てない	桜並木の整備	
			文化財、文化活動への補助	
	地震などの備えや意識が低い			
	住民全体の防災訓練実施			
街路灯が少ない	公害や汚染に対する管理			
都市環境	若者用貸し農園を用意	エコ&スローライフの啓蒙活動		<ul style="list-style-type: none"> ・建替えや改修による不燃化・耐震化 ・避難路・避難地の整備 ・狭隘区間の拡幅等密集市街地での防災進入路の確保 ・河川の改修整備や下水道(雨水排水)整備 ・環境や健康に対する意識等の啓発 ・余暇活動や社会貢献活動の促進 ・自然環境を活かしたレクリエーション施設の充実 ・観光客等交流人口の受け入れ促進 ・行政情報の公開 ・各種ワークショップ等の開催促進 ・NPO等市民組織の育成・支援
		地域イベントに若者参加		
	山間地がレクリに活かされていない	高齢者用レクリエーション施設の増設	宿泊体験農業	
	県外への観光PR不足	グリーンツーリズムの推進	観光地としてのPR	
	わかりやすい案内標識の設置	体験農業施設の設置		
		エコ&スローライフ都市のPR		
	地域内でのコミュニケーションが希薄	楽しむ催し物を考える	市全体としてイベントの盛り上げ	
街路樹等の管理を住民が定期的実施		ボランティアの育成		
土地利用は住民の意思の反映なし				

3 - 3 市民アンケート結果のまとめ

本計画に市民の意向を反映するため、『南砺市都市計画マスタープラン』に関する市民アンケートを実施しました。アンケート結果の要約と計画への反映を以下のように整理します。

『南砺市都市計画マスタープラン』に関する市民アンケート』の概要

市内に居住する18歳以上～75歳未満の市民3,000人（無作為抽出）を対象として、平成19年11月に実施しました。

配布回収は郵送にて行い、配布数3,000に対して、回収は1,644票で、回収率は54.8%となりました。

「南砺市都市計画マスタープラン」に関する市民アンケートの結果

地域環境の満足度

教育環境、日常生活環境、その他の環境に分類し、19項目について満足・不満度を5段階で評価してもらいました。

結果は、「自然」や「景観」など地域の良さに満足しながらも、若年層を中心とした人口流出の背景にある「大学等」や「就職先」などに不満が高くなっています。

本計画では、こうした結果を踏まえ、市全体で対応すべき内容と地域別に対応すべき内容を整理し、検討を行うこととします。

都市計画の考え方

今後の重点施策と都市計画の相反する2つの考え方について選択してもらいました。

結果は、自然や景観の保全が大切だと受けとめながらも、「大型店は立地規制でなく適地へ誘導」、「生活施設は近くに」、「狭隘道路の拡幅」などが多く選ばれました。このことから、多くの市民は利便性や安全性を求める傾向が強いと考えられます。

本計画では、市民の要望の高い都市施設や都市機能とともに、自然環境と生活環境が調和したまちづくりについて検討します。

市の都市計画の焦点

空き地・空き家対策、商業振興、道路、公園、防災、景観、就労先、東海北陸自動車道、北陸新幹線の各項目に関する施策について選択してもらいました。

結果は「(郊外の大型店に中心街は)太刀打ちが難しい」や「観光地の素通り化が心配」などの意見がある反面、諸問題に対して「市民・行政等の協働」や「市民意識の向上」など、市民と行政が協働して話し合いながら進めていくという考えが多くなっています。厳しい財政状況をふまえて、新規整備ではなく、既存の施設などを活用した効率的な行政を求める声も多くなりました。

本計画では、こうした意見を反映するとともに、地域ごとの要望は地域別構想に反映させていくこととします。

自由意見

自由記入欄には356人から回答があり、件数は448件を数えました。

自由意見の内容については、土地利用・交通、行財政の効率化・健全化、保健・医療・福祉・子育て、人口の定着化・増加策への要望などが多くなっています。

3 - 4 課題の設定

「現況と特性」「上位・関連計画」及び「ワークショップ」や「市民アンケート」を整理し、以下のように課題を設定します。

1 産業振興など総合的な取り組みによる若者の定着化

- ・若年層の転出が見られることから、多彩で魅力的な就労先の創出が求められています
- ・若者が魅力を感じる住宅、コミュニティや都市づくりが求められています
- ・新たな南砺市の創造を目指して、若者が進んで活躍し貢献する場の拡大が望まれます

2 少子高齢化にも対応した暮らしの充実

- ・若年層の定着や子育て環境の整備により、地域の出生力を確保することが重要です
- ・高齢化が進むなかで、医療福祉サービスや公共交通の充実が課題となっています
- ・市民が世代を超えて交流しながら元気に暮らす地域が望まれます
- ・車がなくても気軽に利用できる便利な市街地を整備していくことが急務となっています

3 地域を越えた市民パワーの結集と行政の協働

- ・行財政の効率化とも相まって、まちづくりへの市民参加の必要性が高まっています
- ・市民が互いの力を結集するとともに、行政との協働を強めていくことが求められています
- ・地域コミュニケーションが希薄になりつつあることから、地域コミュニティ力の強化が求められています
- ・旧町村を越えた交流により、市としての一体性を高めていくことが重要です

4 広域交通や多彩な資源を活かした交流の活発化

- ・東海北陸自動車道の全線開通により、本市をめぐる人や物の流れが大きく変化することになります
- ・優れた地域資源を活かした交流人口の拡大が期待されます
- ・物流機能の導入や産業活動の活性化による経済力の向上が望まれます

5 地域資源の継承による市民の誇りの増進と南砺市のファンの拡大

- ・国民の価値観の変化に伴って、固有の地域資源の保全と継承が求められています
- ・地域の潜在力を活かし、地域ブランド化や認知度を高めていくことが求められています
- ・市民の郷土に対する誇りを増進するとともに市外のファンを増やすことが望まれます

6 環境の保全・豊かな自然との共生

- ・地球規模の環境悪化が進むなかで、環境にやさしい生活への転換が必要となっています
- ・山間地、河川、カイニョ(屋敷林)などの豊かな自然や良好な農地を活かし、自然と共生し、ゆったりと暮らせるまちづくりが求められています
- ・人口確保策として、Iターンや二地域居住¹などを増やすことが期待されます
- ・土砂崩れや雪害等の災害がみられるなかで、安心して暮らせる環境が求められています

1 二地域居住 : 都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと